|  |
| --- |
| **一般社団法人日本家政学会 家族関係学部会　ニューズレター****Council on Family Relations, Japan Society of Home Economics****2017年度　第2号　2018.2.15発行****編集　表　真美（庶務担当）** **発行　家族関係学部会事務局**　　　　　　　　　　　　　　　　 |

＊＊＊＊＊　**INDEX**　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

■ 部会長より

■ 第37回家族関係学セミナー報告

■ 日韓学術交流　「韓国家族関係学会2017年秋期大会に参加して」

■『家族関係学』編集委員会より

■『家族関係学』のJ-STAGE登載による電子ジャーナル版の著作権について

■ 家族関係学セミナーの参加資格及び自由報告における共同発表者の会員資格について

■ 「家庭生活アドバイザー」の資格化に関する動向

■ 庶務（会員管理担当）より　　　■ 会計より

■ 第38回家族関係学セミナーのご案内

■ 星野久先生を偲んで

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**部会長より**

**佐藤　宏子（和洋女子大学）**

暦の上では春となりましたが、身も凍てる寒さが続いております。春の陽だまりが待ち遠しく感じられる今日この頃ですが、皆さま、お元気でおすごしでしょうか。2016年10月に現役員会が発足して１年６か月がすぎました。現役員会では、ICTの利活用を促進し、迅速で的確な情報発信に取り組んでまいりました。そして、本日は家族関係学部会初の電子メールによる「ニューズレター2017年度第２号」をお届けいたします。ニューズレターは、本号から電子メールによる一斉配信およびホームページへの公開に変更されます。また、これまでニューズレターに掲載しました総会議事録は、ホームページに概要版を公開しております。この他にも、2017年２月に第１号を配信したメールマガジンは第６号を発行し、ホームページはほぼ毎月更新を重ねております。

さらに、『家族関係学』誌のJ-STAGE登載の時期が当初の予定よりも早まり、今年度中に登載されることになりました。J-STAGEは、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」です。J-STAGEに登載されると『家族関係学』誌の論文等を国内外に向けて発信すること、世界中どこからでもアクセス・閲覧することが可能になります。今年度は『家族関係学』No.35とNo.36、来年度はNo.29～34を登載し、『家族関係学』No.37以降は刊行と同時に登載する予定です。また、『家族を読み解く12章』（仮称）（編集：（一社）日本家政学会、発行：丸善出版株式会社）も2018年秋の刊行に向けて、準備を進めております。

部会ではこのように様々な事業や活動が同時進行しておりますので、ご協力をお願いいたします。

**★ ☆ ★　第37回家族関係学セミナー報告　★ ☆ ★**

**杉井　潤子（第37回セミナー実行委員長／京都教育大学）**

第37回家族関係学セミナーは、2017年10月21日、22日の２日間にわたって、ホテルビナリオ嵯峨嵐山（京都市右京区）で開催されました。今回は観光都市京都の宿泊事情を鑑み、さらに会員相互の新たな交流の機会をもつことをねらいとして、セミナー創成期に倣ってホテルをほぼ貸し切っての宿泊を伴う合宿形式でした。プログラムは例年通りに第1日目は公開シンポジウム、第2日目に自由報告という構成でした。参加者は計67名で、内訳は一般会員39名、名誉会員4名、学生会員9名のほか、招聘した外部講師2名、公開シンポジウム一般参加ほか13名でした。

第1日目の公開シンポジウムは、「家族／家庭のリアリティーを多角的に考える―生活者としての女・男・子どもの生きざまを問い直す―」と題するテーマのもと、日本家政学会第2期活動助成を得て開催されました。近世から近現代にいたる「歴史軸」、個人－家族・コミュニティ－の「社会軸」、「グローバル軸」から、生活者として女・男・子ども一人ひとりの生きざまを問い直すことを目的としました。第1報告の沢山美果子氏（岡山大学）は「『いのち』とジェンダーの視点からみた女・男・子ども―近世から近代へ」と題して、捨て子と乳に関する近世史研究から、「いのち」のとらえ方が近代化とともに変容していく過程を指摘されました。第2報告天木志保美氏　（元同志社大学）は「後期近代と家族」と題して、家族社会学研究をもとに家族に代わるものとしてHome，Householdを舞台とする社交性への拡がりを指摘されました。第3報告宮坂靖子氏　（金城学院大学／会員）は「家族の近代化・脱近代化と子育て―ケアネットワークと情緒規範からのアプローチ」と題して、中国ならびにデンマークの子育てに関する調査から近代化・脱近代化の複数の道筋を指摘されました。司会は松岡悦子会員（奈良女子大学）が担当され、生活者としての家庭と家族生活についてさまざまな視軸から活発な議論が行われました。シンポジウム終了後は総会が開催され、引き続いてホテルの宴会場にてシンポジストの先生方を交えて計52名が集い、懇親会を催しました。

第2日目の自由報告は計13報告がありました。以下、タイトルと報告者を記します。第1分科会では「高齢者疑似体験の教育効果検証に関する研究」（赤松瑞枝氏）、「幼児期のお手伝い経験と小・中・高等学校時代の家事頻度」（岩﨑香織氏）、「季節感を軸とする教科横断的な学びの可能性」（改田仁実氏）、「現代中国における教育ストレスと子どものソーシャルスキルに関する研究」（陳鳳氏）、「女性雑誌に見る子どもの教育と親の役割」（李秀眞氏）、「育児期の母親のIT利用と世代間の支援交換」（大風薫氏）、以上6報（副題省略）。第2分科会は「65歳以上の夫婦世帯と単身世帯の家族時間と生活満足度―韓国生活時間調査の分析から―」（金珠賢氏）、「日本におけるインドネシア人技能実習生と母国における家族の関係」（Primasari Nirwana Dewi氏）、「現代中国の未婚者の家族形成に関する意識」（郭朕潔氏）、「共働き夫婦の家計と夫婦関係」（鈴木富美子氏）、「育児を取り巻く現状と「乳児家庭全戸訪問事業」の意義」（永田阿子氏）、「養子縁組の減少と社会保障の拡大」（湯沢雍彦氏）、「「一人っ子政策」から「二人っ子政策」へ」（郭進氏）、以上7報（副題省略）でした。座長には上野顕子会員（金城学院大学）、木脇奈智子会員（藤女子大学）大山治彦会員（四国学院大学）、山下亜紀子会員（九州大学）にお世話になりました。おかげさまで活発な質疑とともに有意義な時間となりました。

台風が接近する悪天候のなか、皆さまのご協力を賜り、盛会のうちに無事終了することができましたことに対し、心からお礼を申し上げ、報告いたします。

第37回家族関係学セミナー実行委員会　 青木加奈子、李璟媛、磯部香、橋本有理子

松岡悦子、山下美紀、杉井潤子

**★ ☆ ★ 日韓学術交流　　「韓国家族関係学会2017年秋期大会に参加して」 ★ ☆ ★**

**李　璟媛（岡山大学）**

2017年10月27日（金）に祥明大学校（サンミョン）のソウルキャンパスで開催された「2017秋季学術大会」において、日本からのゲストスピーカーとして参加し基調講演を行いました。祥明大学校は、1965年に祥明女子師範大学（師範大学は日本の教育大学にあたる）として開校し、1983年に師範大学から一般大学へ転換、祥明女子大学に校名を変更、1996年に男女共学の祥明大学校に変わりました。大学は、ソウル市ゾンロ区の高台に位置し、市街を見渡せる場所にありました。

学会参加登録開始時刻はちょうど正午からということもあり、会場の入り口には、お茶やお餅、お菓子、果物などをサービスするコーナーが設けられ、参加者のみなさんは学会が始まる前から懇談を楽しんでいました。また、会場近くには、ソウル市の各自治区で活動しているひとり親家庭支援グループや多文化家庭支援グループなどの関係者が、グループ活動を宣伝するコーナーがありました。グループ活動に賛同する署名を受け付けていましたので、私も、すべてのグループに対して活動を賛同するサインをしました。

学会は、韓国家族関係学会長の挨拶と祥明大学校の総長の祝辞から始まりました。今回の大会テーマは「親密な関係づくりにおける地形変化」です。「基調講演」のテーマは、本学会の全体テーマに関連する内容で、「親密な関係の地形変化と家族学者の課題」（祥明大学校ジョン、ヒョンスク）と「日本社会の親密な関係の地形変化―結婚と離婚を中心に」（岡山大学李璟媛）の2つの講演がありました。基礎講演に続いて3つの分科会における口頭発表がありました。分科会は、「親密な関係づくりの様相」「親密な関係と父母役割」「自由主題および新人学者発表」の3つのテーマに分かれており、合計9件の報告がありました。私は「親密な関係づくりの様相」分科会に参加しました。分科会の後に開催された総会にも参加する機会を得ました。総会では、「家族親和賞」授与式と「家族相談士」「家族生活教育士」の資格証の授与式があり、素晴らしい笑顔で賞や資格証を受け取られていたみなさんの姿が印象的でした。

大会終了後の懇親会では会長のチェ、ヨンシル先生（祥明大学校）をはじめ、理事のみなさまと交流しました。美味しい韓定食をいただきながら、韓流ドラマと日本の映画にみられる家族を比較、話し合いました。日本の映画などを家族の講義に取り入れておられる先生も多かったです。非常に楽しい懇親会でした。

今回は、家族関係学部会のおかげさまで、韓国家族関係学会で基調講演をさせていただく機会を得ました。今までは、韓国からゲストスピーカーを迎える際に韓国との連絡や原稿の翻訳、部会当日の通訳などのお手伝いをし、大変貴重な経験をさせていただきましたが、今回は、ゲストスピーカーとして、また新たな貴重な経験ができました。

韓国家族関係学会とは学術交流協定が結ばれており、会員はお互いの学会（セミナー）で発表し、学会誌（部会誌）に投稿することができます。会員のみなさまにも、ぜひこの機会を活用していただければと思います。

**☆ ★ ☆　『家族関係学』　編集委員会より　★ ☆ ★**

**山根　真理（編集委員長／愛知教育大学）**

○**『家族関係学』投稿論文の募集**

『家族関係学』No.37への投稿原稿を募集いたします。多くの会員のみなさまから力作が寄せられますことを期待しています。

投稿締め切りは**2018年3月31日（金）〈＊消印有効〉**となります。以下の諸点にご留意の上、ご準備ください。

（１）投稿先は以下の通りです。

|  |
| --- |
| 　〒448-8542　刈谷市井ヶ谷町１ 愛知教育大学家政教育講座 山根真理研究室気付 　 　　家族関係学編集委員会　山根　真理　宛　　Tel : 0566-26-2479問い合わせ先　　E-mail：myamane★auecc.aichi-edu.ac.jp★を＠に置き換えてください |

（２）投稿規定および執筆要項は、最新の部会誌の付録部分、もしくは部会のwebサイトでご確認ください。特に、分量オーバーの投稿原稿は受理できない場合がありますので、くれぐれもご注意ください。具体的には、本誌執筆要項第1項で、「A4版用紙に40字×30行で印字する」となっています。この書式で17ページ（文章だけの場合）までに収まっていないと受理できない場合があります。図表がつく場合は、その分量に応じ上記の文章量はさらに制約されることになります。

　　　上記の書式を守っていただくこともたいへん重要です。注、参考文献も含め、すべて「40字×30行」で印字してください。書式が異なると受理作業に余分な手間がかかります。この点についてもくれぐれもご注意をお願いします。

**〇書評・文献紹介の対象となる図書情報の募集**

書評・文献紹介の対象となるご著書等の情報を、ぜひお知らせください。2017年5月1日から2018年4月30日までの間に刊行され、部会員が執筆に関わったすべての文献を対象とします。自薦、他薦いずれも歓迎します。

以下の宛先まで、書誌情報【著者名・編者名、書名、発行年月日、発行所、価格、執筆部会員名】をE-mailでご連絡いただければ幸いです。

 締め切りは、2018年5月2日（水）です。

|  |
| --- |
| 　〈新刊図書情報の連絡先〉　〒168-8508　　東京都杉並区大宮2-19-1　高千穂大学 　 吉原　千賀　宛E-mail : yoshihara★takachiho.ac.jpTel : 03-3317-4077(内線3203） Fax : 03-3313-9034★を＠に置き換えてください |

**〇J-Stage申請について**

部会長挨拶にありますように、J-Stage登載予定時期が早まり、今年度中に登載される見込みです。電子版『家族関係学』誌の船出に向けて、引き続き作業をすすめてまいります。

**★ ☆ ★　　『家族関係学』のJ-STAGE登載による**

**電子ジャーナル版の著作権について 　★ ☆ ★**

**佐藤　宏子（部会長／和洋女子大学）**

**山根　真理（編集委員長／愛知教育大学）**

○『家族関係学』誌のJ-STAGE登載は平成30年度以降の予定でしたが、今年度中の登載が決定しました。そこで、部会では今年度中に『家族関係学』No.36とNo.35を登載する準備を進めております。また、来年度は、No.34からNo.29までを遡って登載し、来年度刊行予定のNo.37以降は、刊行と同時に登載する予定です。

○J-STAGE登載予定の『家族関係学』No.29～36の執筆者の皆さまに、印刷冊子体の『家族関係学』と同様に、J-STAGE登載の電子ジャーナル版『家族関係学』の著作権についても本部会に帰属することをご承諾いただきたいと存じます。

○J-STAGEに登載予定の『家族関係学』No.29～36における論文、研究ノート、書評、文献紹介、特集、政策動向、報告およびその他を執筆された部会員で、上記の件をご承諾いただけない方は、

**2月28日**までに下記にご連絡ください。ご承諾いただける方の連絡は必要ございません。ご質問などがある方も下記にお問い合わせください。

＜ご承諾いただけない場合の連絡先＞

家族関係学部会長　佐藤宏子　　E-mail：h-sato★wayo.ac.jp　　★を＠に置き換えてください

**★ ☆ ★　　家族関係学セミナーの参加資格及び自由報告における**

**共同発表者の会員資格について ★ ☆ ★**

**佐藤　宏子（部会長／和洋女子大学）**

これまでは会員向けに家族関係学セミナー案内を送付していることから、参加者資格および自由報告の発表者資格をとくに掲げておらず、家族関係学セミナーの参加者および自由報告者は、部会員であることを暗黙の前提としてきました。このため、従来は入会手続きをしてから、セミナー参加および自由報告の申込をしていただきました。しかし、近年はセミナーに大学院生や社会人などの非会員の方の参加が増えていること、共同研究が増加しており自由報告の共同発表者への配慮が必要になっていることなどから、2017年10月の総会において下記の４点が承認されました。

○家族関係学セミナーの参加者資格は部会員に限定しない。

○非会員がセミナーに参加する場合は当日参加費を徴収する。また、セミナー受付に入会届を用意して、非会員の入会を促す。

○自由報告の発表者については、第一発表者は部会員に限るが、共同発表者は非会員も可とする。

○非会員の共同発表費は3,000円とする。

**★ ☆ ★ 「家庭生活アドバイザー」の資格化に関する動向　★ ☆ ★**

**細江　容子（家族・家庭生活アドバイザー準備幹事／実践女子大学）**

一般社団法人日本家政学会家庭生活アドバイザーの資格化に向けて、2017年9月30日に開催された第3回理事会で、パイロット事業（8月18日・19日に開催）の実施結果（内容、参加者数／19名、決算／黒字、今後の課題／7項目）について説明がなされ、承認されました。

さらに、「家庭生活アドバイザー」資格認定規程案を次年度の代議員総会で事業計画として報告すること、資格認定委員会を設置すること、今年度講習会受講者は次年度に資格を追認予定であること、について承認されました。今年度講習会受講者に対しては、3月に残りの講座を実施し、次年度の70周年大会で認定証を授与する方向で進めることになりました。その後委員会での議論の結果、家庭生活アドバイザー・資格認定研修(その2)は、2018年3月10～18日に実施される予定となりました。

また、2017年12月9日に開催された第2回役員連絡会で、赤塚委員長より「家庭生活アドバイザー」資格認定規程案、資格認定委員会の設置と委員、今後のスケジュール、家庭生活アドバイザーの社会貢献に関する提案・報告がなされました。

なお、学会誌8月号に、第69回大会時のシンポジウム報告／学会誌への掲載（赤塚委員長）、第69回大会において開催された検討委員会企画シンポジウム「8月実施のパイロット事業に向けて」の報告記事が掲載されています。

**★ ☆ ★ 庶務（会員管理担当）より ★ ☆ ★**

**山下　美紀（庶務／ノートルダム清心女子大学）**

〇ご住所・ご所属の変更、入退会のご希望については、下記までご連絡ください。

〇2017年度から学生会員の年会費が減額されております。会員区分に変動があった場合は、（たとえば、学生会員から正会員へ）お手数ですが、下記までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

〇情報提供のお願い

　　　連絡先不明：　石本　与恵　・　内藤　直子（敬称略）

　　　※連絡先の情報をお持ちの方はご連絡ください。

〇バックナンバーの購入について

「家族関係学」の在庫は、30号（19冊）、31号（８冊）、32号（９冊）、33号（８冊）、34号（19冊）、35号（25冊）、36号（21冊）です。１冊2,000円で購入できます。購入希望の方は、下記の連絡先までお知らせください。ご所属の図書館等の蔵書としてもお買い求めいただきますようお願いします。

なお、『家族関係学』の在庫の保管・販売は2017年７月から、よしみ工産株式会社東京事務所に業務委託しています。購入希望者の方には、よしみ工産株式会社より郵送されます。

|  |
| --- |
| 　連絡先：ノートルダム清心女子大学　山下 美紀　　　　〒700-8516 　岡山市北区伊福町2-16-9 Tel：086-252-2142 Fax：086-252-5145E-mail : inquiry★kazokukankeigaku.jp（家族関係学部会事務局）★を＠に置き換えてください |

**★ ☆ ★　会計より　☆ ★ ☆**

**井上　清美（会計／川口短期大学）**

 2017年度および過年度の年会費を未納の方には、すでに振込用紙を送付しております。２月28日(水) までにお振り込みください。会計の都合上、期日厳守でお願いいたします。

 また、学生会員の年会費が2017年度より減額となっております（正会員4,000円、学生会員2,000円）。2018年度に学生会員として入金を希望される方は、学生証の写しを下記までお送りください。郵送、FAX、画像のメール添付などいずれの方法でもかまいません。提出期限は2018年４月１日から５月31日とさせていただきます。なお、学生会員の場合は２年分の会費を前納することはできません。

 ご不明の点がございましたら、下記までご連絡ください。

|  |
| --- |
| 年会費振り込み先：（郵便振替）００３１０−６−３０２２９ 家族関係学部会 連絡先：川口短期大学　井上　清美  〒333-0831 川口市木曽呂1511Tel：048-294-1963 fax：048-294-3755 E-mail：ki.inoue★kawaguchi.ac.jp　　★を＠に置き換えてください |

**★ ☆ ★　第38回家族関係学セミナーのご案内　☆ ★ ☆**

**大石　美佳（第38回セミナー実行委員長／鎌倉女子大学）**

第38回セミナーは鎌倉市大船にあります鎌倉女子大学にて開催いたします。豊かな自然と歴史のおもかげを今に残す古都・鎌倉の北西部に位置し、古くは松竹大船撮影所（その後、鎌倉シネマワールド）のあった場所に大船キャンパスがございます。セミナー参加、自由報告募集のご案内は、6月を予定しております。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

日　程：2018年10月13日（土）～14日（日）

会　場：鎌倉女子大学（大船キャンパス）/ 鎌倉市大船6-1-3

アクセス：JR大船駅下車、徒歩8分（JR東京駅から約42分、JR横浜駅から約15分）

**＝＝＝　訃報　＝＝＝**

本部会の初代部会長として部会創設と部会発展にご尽力いただきました星野久先生（部会長：1981-84、1990-92）が、2016年12月にご逝去されたとの報を頂きました（享年93歳）。星野先生は、亡くなられる前日もいつものとおり愛犬の散歩をされるなど、大変お元気におすごしだったそうです。大きなご業績を遺し、温かいご指導をくださった故・星野久先生に会員の皆様と共に哀悼の誠を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げたいと存じます。

星野先生のご生前にご親交の深かった名誉会員の本村汎先生に、星野久先生のご追悼文を執筆していただきました（部会長　佐藤宏子）。

■■■　**星野久先生を偲んで　■■■**

**本村　汎（元部会長／大阪市立大学名誉教授）**

私が星野久先生と関わり合いを持つようになったのは、先生が奈良女子大学の家政学部に在籍されていた頃で、大阪市立大学では「アジア家政学会」が開催された時でした。その時、大阪市大の上林博雄先生から学会の開会式の司会を頼まれて、星野先生と二人で司会をしたことを懐かしく思っております。

　昭和52年頃から、星野先生は日本家政学会で「家族関係学部会」が存在していないことに疑問を持たれ、同年に湯沢先生の発案で作られた「家族関係学担当者懇談会」の活動に共感し、この懇談会の活動を礎にして「日本家政学会家族関係学部会」作りに貢献し、初代部会長になられています。活動としては毎年「家族関係学セミナー」を開催することにし、部会誌『家族関係学』第１号（1981年）の発行にまで着手されています。

　家族関係学の教育と研究については、星野久先生は基本的に次の二つの問題意識を持っておられました。その第一は激動する現代社会のなかで家族集団が大きく変化してきているのに、文科省による初等・中等学校における家庭・教育指導要領では家族変動の記述が殆ど無いこと、第２は学会誌やジャ－ナルに掲載された研究者の研究結果が、現場の実践家からは役にたたないと批判されているということでした。

しかし晩年には、上記の問題については若い研究者が解決してくれるだろうと言い残し、一昨年の12月17日に93歳で逝かれました。これからも草場の陰から「家族関係部会」を見守って下さいますことを願いながら筆をおきます。

❀＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋❀

＜家族関係学部会事務局＞

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9 ノートルダム清心女子大学　山下美紀

Tel：086-252-2142 Fax：086-252-5145

E-mail : inquiry★kazokukankeigaku.jp（家族関係学部会事務局）

　 メールマガジン配信アドレス：info★kazokukankeigaku.jp　　★を＠に置き換えてください

　 家族関係学部会ホームページのURL： <http://kazokukankeigaku.jp>

❀＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋❀